

調査結果の概要

1 産地上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格の動き（197漁港）

平成18年の全国主要漁港における上位品目の上場水揚量の動向をみると、前年に比べかたくちいわし（147%）、さば類（105%）等は増加しているものの、かつお（生鮮）（78%）、ほっけ（74%）等は減少している。

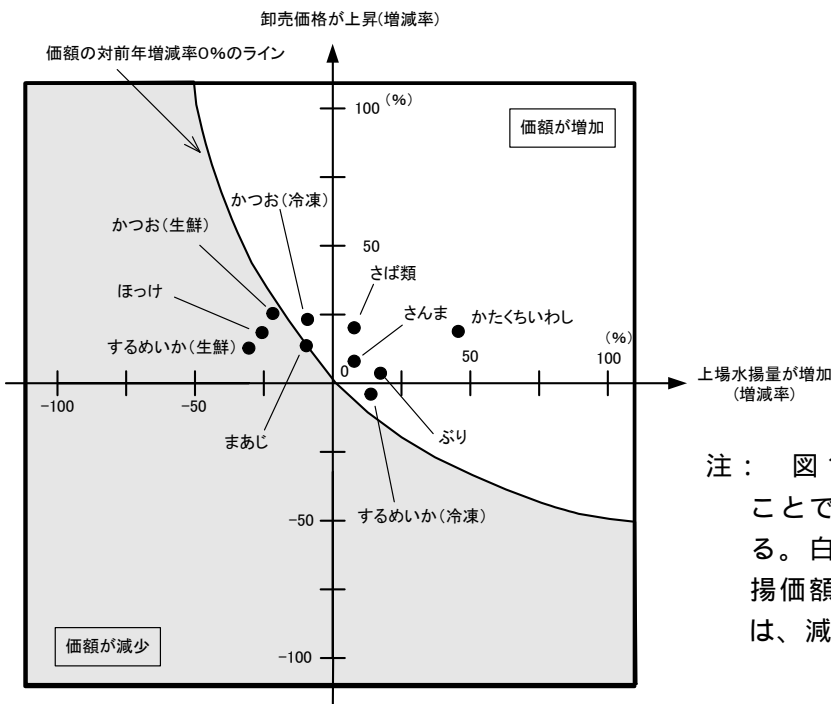
同様に上場水揚価額の動向をみると、前年に比べかたくちいわし（171%）、さば類（124%）等は上昇しているものの、するめいか（生鮮）（79%）、ほっけ（85%）等は低下している。
また、卸売価格については、総じて前年に比べ上昇している。

表1 品目別上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格の推移（上場水揚量上位品目）

品目	単位									
	上場水揚量 : t		上場水揚価額 : 百万円		卸売価格 : 円/kg					
年次	さば類	さんま	かたくちいわし	かつお(冷凍)	まあじ	するめいか(生鮮)	ほっけ	かつお(生鮮)	ぶり類	するめいか(冷凍)
上場水揚量										
平. 14	277 540	203 665	267 119	213 404	158 860	149 407	114 040	67 770	64 019	82 906
15	310 144	258 626	346 744	199 774	202 727	119 284	122 779	106 609	67 176	79 498
16	328 161	205 260	325 852	207 927	209 591	133 715	149 884	71 532	74 396	50 775
17	601 914	226 876	157 649	248 397	160 484	120 928	117 426	107 750	62 596	56 440
18	631 012	238 176	231 432	223 196	140 737	87 325	86 945	83 980	72 781	63 733
対前年比(%)										
18/17	105	105	147	90	88	72	74	78	116	113
上場水揚価額										
平. 14	29 398	32 148	11 009	27 160	32 567	29 340	4 432	23 128	35 985	17 178
15	24 433	17 227	8 837	20 641	29 945	24 339	3 504	23 600	35 626	15 934
16	28 638	22 619	7 617	24 786	30 177	34 389	4 276	25 030	35 871	14 986
17	31 960	14 933	4 446	27 365	27 367	29 798	5 509	22 665	29 648	14 476
18	39 493	16 667	7 599	30 291	27 380	23 500	4 696	22 285	35 093	15 989
対前年比(%)										
18/17	124	112	171	111	100	79	85	98	118	111
卸売価格										
平. 14	106	158	41	127	205	196	39	341	562	207
15	79	67	25	103	148	204	29	221	530	200
16	87	110	23	119	144	257	29	350	482	295
17	53	66	28	110	171	246	47	210	474	256
18	63	70	33	136	195	269	54	265	482	251
対前年比(%)										
18/17	119	106	118	124	114	109	115	126	102	98

注：「するめいか」には、「まついか類」を含む。

図1 上場水揚量上位品目別上場水揚価額の増減（対前年比較）



注：図1は、水揚量と価格の増減率を打点することで、上場水揚価額の増減傾向を示している。白抜き部分に打点された場合は、上場水揚価額は増加、網かけ部分に打点された場合は、減少したことを表す。

2 品目別にみた上場水揚量、上場水揚価額、卸売価格及び用途別出荷量の動き

(1) さば類

ア 上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格の動き

上場水揚量は63万1,012 tで、前年に比べ5%増加した。これは、茨城県から岩手県沖にかけて漁場が長期にわたり形成されたため、八戸（青森）、石巻（宮城）等でまき網漁業等の水揚量が大幅に増加したこと等による。

上場水揚価額は394億9,300万円で、前年に比べ24%増加した。

1 kg当たりの卸売価格は63円で、大型で品質の良いさばが多く水揚げされたこと等により前年に比べ19%上昇した。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、銚子（千葉）が21%と最も高く、次いで石巻（宮城）が11%、八戸（青森）が9%となっている。（表1、図2及び3参照）

図2 さば類の上場水揚量及び卸売価格の推移

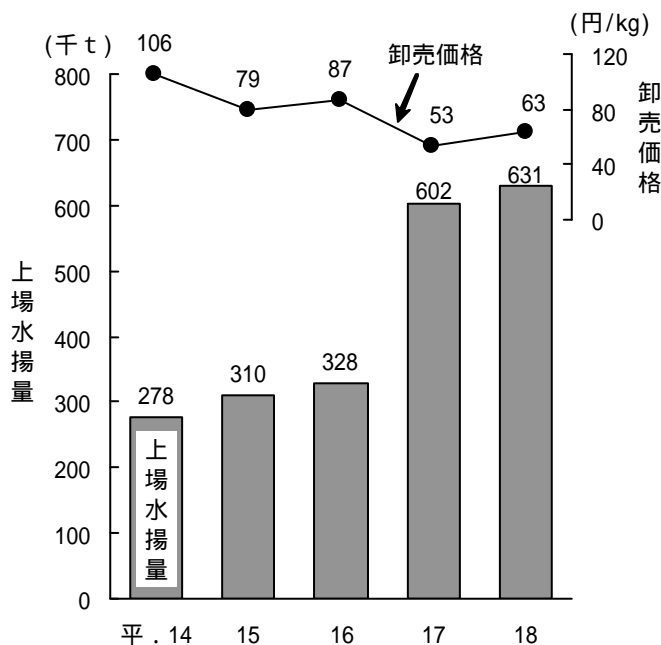
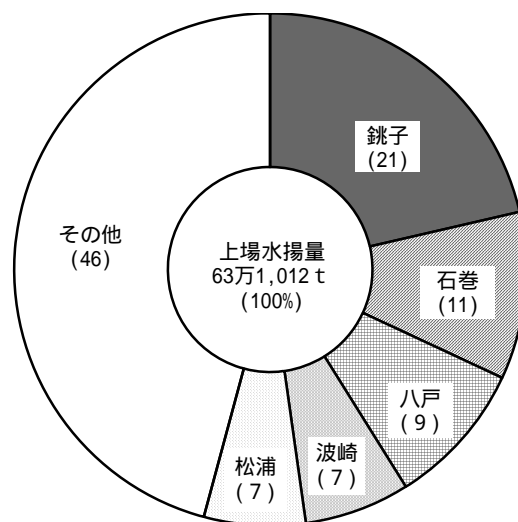


図3 さば類の上場水揚量の漁港別構成割合



イ 用途別出荷量

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けは19.3%、食用加工向けは49.1%、魚油・飼肥料向けは3.1%で、前年に比べそれぞれ1.0ポイント、3.6ポイント、1.5ポイント上昇し、養殖用又は漁業用餌料向けは28.5%で、前年に比べ6.1ポイント低下した。

（表2参照）

表2 さば類の用途別出荷量

区分	出荷量計	食用向け			非食用向け		
		小計	生鮮食用向け	食用加工向け	小計	魚油・飼肥料向け	養殖用又は漁業用餌料向け
用途別出荷量 (t)	464 802	318 047	89 670	228 377	146 755	14 213	132 542
割合 (%)	100.0	68.4	19.3	49.1	31.6	3.1	28.5
対前年差 (ポイント)	-	4.6	1.0	3.6	4.6	1.5	6.1

注：表示単位未満を四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しない場合がある。（以下の各表において同じ。）

(2) さんま

ア 上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格の動き

上場水揚量は23万8,176 tで、前年に比べ5%増加した。これは、根室(北海道)、厚岸(北海道)、女川(宮城)等で水揚量が増加したことによる。

上場水揚価額は166億6,700万円で、前年に比べ12%増加した。

1 kg当たりの卸売価格は70円で、大型に偏り値崩れを起こした前年に比べ6%上昇した。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、根室(北海道)が24%と最も高く、次いで女川(宮城)が14%、気仙沼(宮城)、釧路(北海道)がともに12%となっている。

(表1、図4及び5参照)

図4 さんまの上場水揚量及び卸売価格の推移

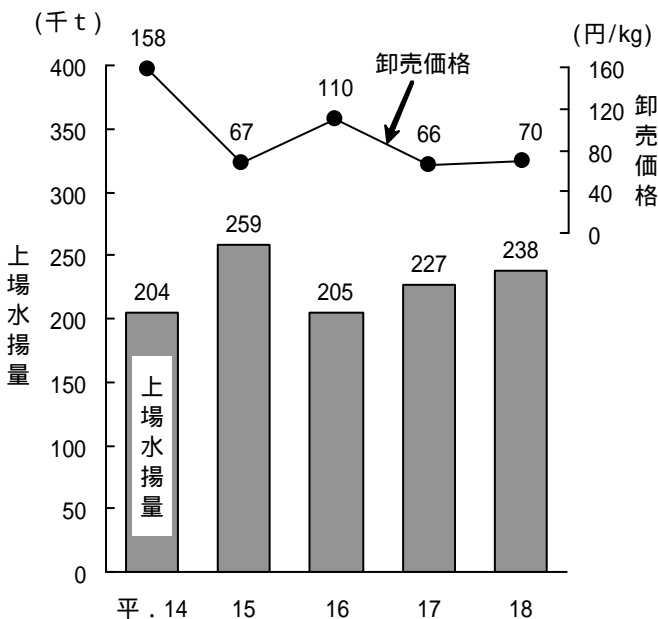
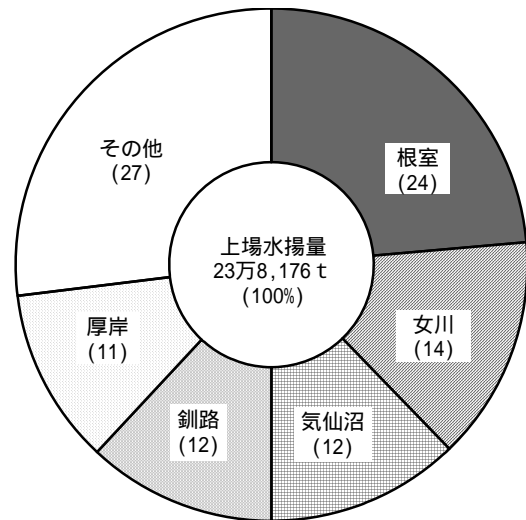


図5 さんまの上場水揚量の漁港別構成割合



イ 用途別出荷量

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けは30.1%で、前年に比べ14.8ポイント低下し、食用加工向けは44.0%、魚油・飼肥料向けは12.4%、養殖用又は漁業用餌料向けは13.5%で、前年に比べそれぞれ、4.8ポイント、6.0ポイント、4.0ポイント上昇した。

(表3参照)

表3 さんまの用途別出荷量

区分	出荷量計	食用向け			非食用向け		
		小計	生鮮食用向け	食用加工向け	小計	魚油・飼肥料向け	養殖用又は漁業用餌料向け
用途別出荷量(t)	149 292	110 604	44 902	65 702	38 688	18 477	20 211
割合(%)	100.0	74.1	30.1	44.0	25.9	12.4	13.5
対前年差(ポイント)	-	10.0	14.8	4.8	10.0	6.0	4.0

(3) かたくちいわし

ア 上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格の動き

上場水揚量は23万1,432 tで、前年に比べ47%増加した。これは、銚子（千葉）、豊浜（愛知）、境（鳥取）等で水揚量が増加したことによる。

上場水揚価額は75億9,900万円で、前年に比べ71%増加した。

1 kg当たりの卸売価格は33円で前年に比べ18%上昇した。これは、漁獲量の減少した産地において価格が高騰したためである。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、銚子（千葉）が25%と最も高く、次いで波崎（茨城）が13%、広尾（北海道）が8%となっている。（表1、図6及び7参照）

図6 かたくちいわしの上場水揚量及び卸売価格の推移

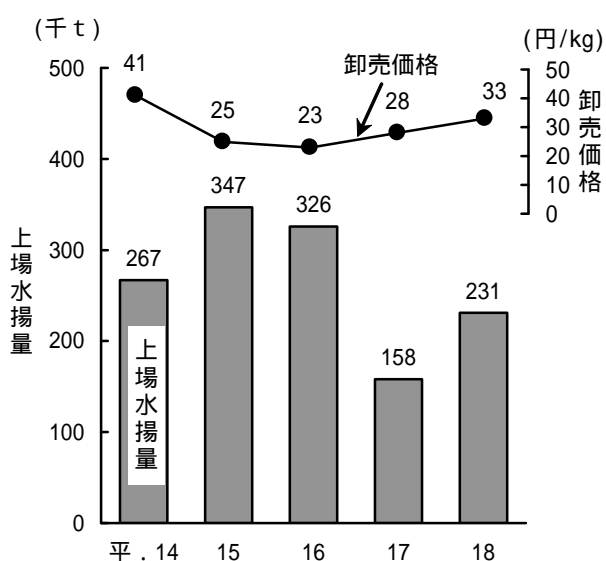
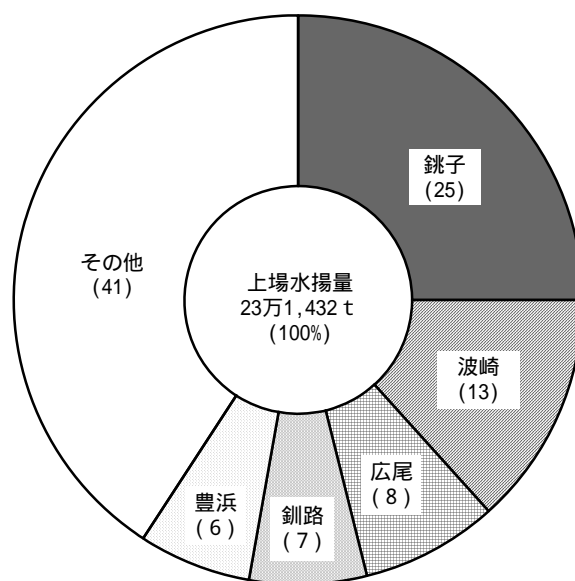


図7 かたくちいわしの上場水揚量の漁港別構成割合



イ 用途別出荷量

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けは2.0%、食用加工向けは13.8%、養殖用または漁業用飼料向けは64.0%で、前年に比べそれぞれ0.7ポイント、1.9ポイント、7.1ポイント低下し、魚油・飼肥料向けは20.3%で、9.8ポイント上昇した。

（表4参照）

表4 かたくちいわしの出荷用途別

区分	出荷量計	食用向け			非食用向け		
		小計	生鮮食用向け	食用加工向け	小計	魚油・飼肥料向け	養殖用又は漁業用飼料向け
用途別出荷量(t)	112 110	17 672	2 202	15 470	94 438	22 731	71 707
割合(%)	100.0	15.8	2.0	13.8	84.2	20.3	64.0
対前年差(ポイント)	-	2.6	0.7	1.9	2.6	9.8	7.1

(4) かつお（冷凍）

ア 上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格の動き

上場水揚量は22万3,196 tで、前年に比べ10%減少した。これは、焼津（静岡）において、燃油価格の高騰による減船により、遠洋かつお一本釣漁業等の水揚量が減少したこと等による。

上場水揚価額は302億9,100万円で、前年に比べ11%増加した。

1 kg当たりの卸売価格は136円で、上場水揚量の減少に加えて、加工向け原料としての需要が高まったこと等により前年に比べ24%上昇した。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、焼津（静岡）が61%と最も高く、次いで枕崎（鹿児島）が18%、石巻（宮城）、山川（鹿児島）がともに9%となっている。

（表1、図8及び9参照）

図8 かつお（冷凍）の上場水揚量及び卸売価格の推移

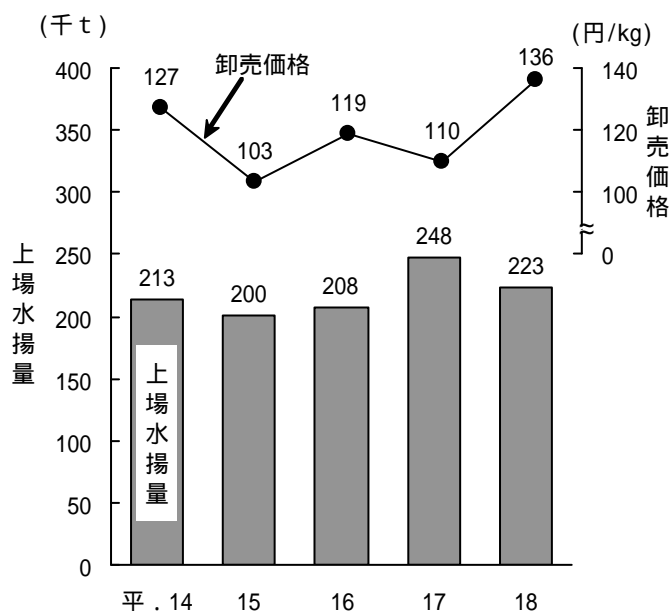
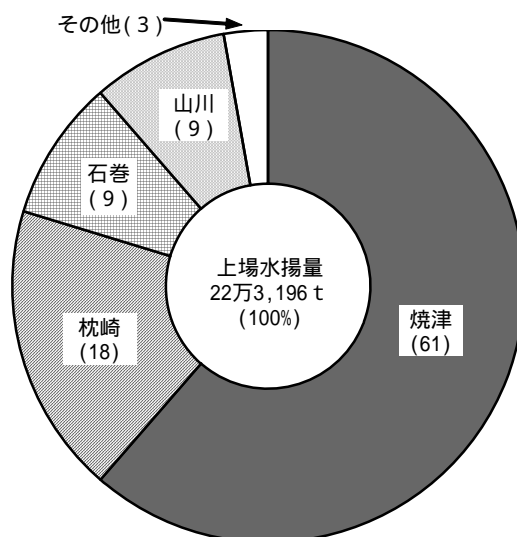


図9 かつお（冷凍）の上場水揚量の漁港別構成割合



イ 用途別出荷量

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けが15.4%で、前年に比べ2.9ポイント上昇し、食用加工向けは84.6%で、前年に比べ2.9ポイント低下した。（表5参照）

表5 かつお（冷凍）の用途別出荷量

区分	出荷量計	食用向け			非食用向け		
		小計	生鮮食用向け	食用加工向け	小計	魚油・飼肥料向け	養殖用又は漁業用飼料向け
用途別出荷量 (t)	199 045	199 045	30 559	168 486	-	-	-
割合 (%)	100.0	100.0	15.4	84.6	-	-	-
対前年差 (ポイント)	-	-	2.9	2.9	-	-	-

(5) まあじ

ア 上場水揚量、上場水揚価額及び卸売価格の動き

上場水揚量は14万737 tで、前年に比べ12%減少した。これは、松浦（長崎）、長崎（長崎）、浜田（島根）等で水揚量が大幅に減少したことによる。

上場水揚価額は273億8,000万円で、前年並みであった。

1 kg当たりの卸売価格は195円で、上場水揚量の減少等により前年に比べ14%上昇した。

上場水揚量の漁港別構成割合をみると、境（鳥取）が19%と最も高く、次いで松浦（長崎）が16%、唐津（佐賀）が9%となっている。（表1、図10及び11参照）

図10 まあじの上場水揚量及び卸売価格の推移

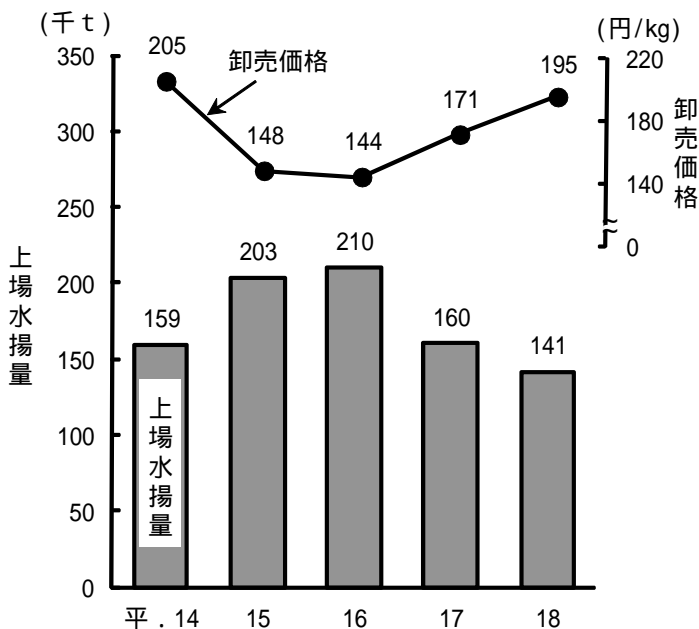
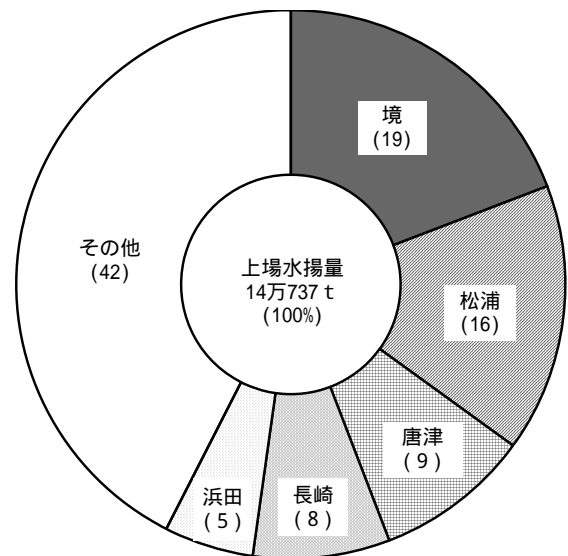


図11 まあじの上場水揚量の漁港別構成割合



イ 用途別出荷量

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けは31.2%、食用加工向けは37.2%で、前年に比べそれぞれ1.1ポイント、1.4ポイント上昇し、養殖用又は漁業用餌料向けは31.5%で、前年に比べ2.5ポイント低下した。（表6参照）

表6 まあじの用途別出荷量

区分	出荷量計	食用向け			非食用向け		
		小計	生鮮食用向け	食用加工向け	小計	魚油・飼肥料向け	養殖用又は漁業用餌料向け
用途別出荷量 (t)	102 256	70 002	31 939	38 063	32 254	54	32 200
割合 (%)	100.0	68.5	31.2	37.2	31.5	0.1	31.5
対前年差 (ポイント)	-	2.6	1.1	1.4	2.6	0.0	2.5

3 消費地卸売数量、卸売価額、卸売価格等の動き

(1) 消費地中央卸売市場における動き（10都市）

卸売数量は178万758 tで、前年に比べ11万4,600 t（6%）減少した。

卸売価額は1兆4,510億円で、前年並みであった。

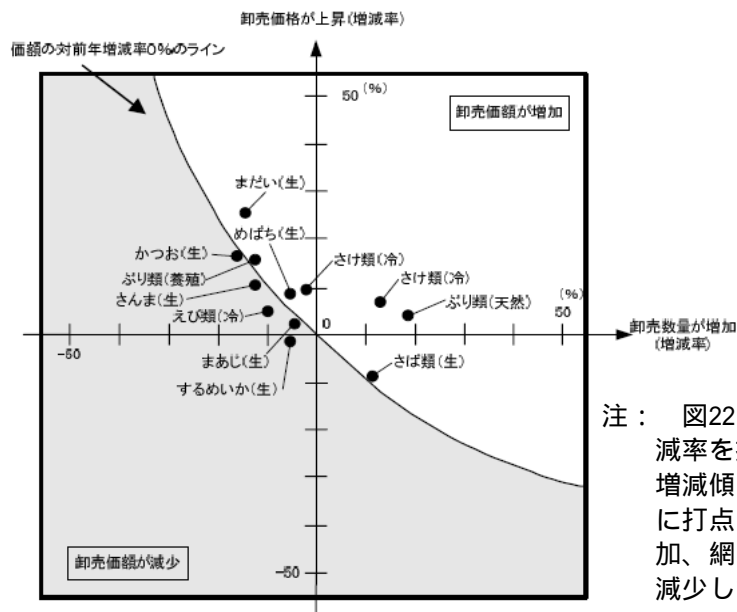
この結果、1 kg当たりの卸売価格は815円で、前年に比べ40円（5%）上昇した。

表12 品目別消費地卸売数量、卸売価額及び卸売価格の推移（卸売数量上位品目）

単位 { 卸売数量：t
卸売価額：百万円
卸売価格：円/kg

品目 年次	計	さけ類		さば類 (生鮮)	ぶり類		まあい (生鮮)	えび類 (冷凍)	めばち (冷凍)	するめいか (生鮮)	さんま (生鮮)	まだい (生鮮)	かつお (生鮮)
		(冷凍)	(塩蔵)		(養殖)	(天然)							
卸売数量													
平. 14	2 089 773	73 146	53 289	53 515	57 408	28 383	47 918	54 940	54 780	52 060	37 025	36 321	24 494
15	2 034 416	67 072	47 743	46 798	54 670	27 359	51 854	53 017	51 604	46 760	43 768	43 082	34 135
16	1 994 600	66 270	46 709	50 295	54 065	31 140	51 470	53 499	45 454	44 643	41 730	43 699	26 915
17	1 895 358	57 654	44 648	47 505	56 124	28 409	48 400	51 215	44 910	42 689	45 225	41 793	33 173
18	1 780 758	65 378	43 561	52 659	48 799	33 763	46 266	45 890	42 097	40 098	39 384	35 715	27 773
対前年比(%)													
18/17	94	113	98	111	87	119	96	90	94	94	87	85	84
卸売価額													
平. 14	1 663 827	33 010	33 791	17 922	48 944	17 993	22 265	74 259	46 335	17 817	16 961	36 009	14 103
15	1 551 977	34 463	32 035	16 065	49 605	17 533	21 419	67 023	44 362	17 092	14 237	33 363	14 116
16	1 515 893	32 495	30 548	16 425	45 896	17 886	20 580	63 864	41 427	17 377	15 330	33 905	14 516
17	1 468 813	32 258	30 152	15 511	43 624	16 116	20 117	61 959	37 772	17 750	13 353	33 606	13 440
18	1 451 020	39 426	32 320	15 716	44 124	19 970	19 631	58 560	38 536	16 526	12 864	35 971	13 215
対前年比(%)													
18/17	99	122	107	101	101	124	98	95	102	93	96	107	98
卸売価格													
平. 14	796	451	634	335	853	634	465	1 352	846	342	458	991	576
15	763	514	671	343	907	641	413	1 264	860	366	325	774	414
16	760	490	654	327	849	574	400	1 194	911	389	367	776	539
17	775	560	675	327	777	567	416	1 210	841	416	295	804	405
18	815	603	742	298	904	591	424	1 276	915	412	327	1 007	476
対前年比(%)													
18/17	105	108	110	91	116	104	102	105	109	99	111	125	118

図22 品目別卸売価額の増減(卸売数量上位品目)(対前年比較)



注： 図22は、卸売数量と卸売価格の増減率を打点することで、卸売価額の増減傾向を示している。白抜き部分に打点された場合は、卸売価額は増加、網かけ部分に打点された場合は、減少したことを示す。

(2) 主要品目別にみた卸売価格、冷凍・冷蔵工場年末在庫量等の動き

10都市中央卸売市場において、卸売数量上位品目のうち、価格の変動が大きい品目を見ると以下のとおりである。

ア かつお（生鮮品）

生鮮品の卸売価格は476円で前年に比べ71円（18%）上昇した。

これは、水揚量が減少したためである。

冷凍・冷蔵工場の年末在庫量は3万4,061 tで、前年に比べ1,955 t（5%）減少した。（表12、図23及び25参照）

図 23 かつお（生鮮品）の卸売数量及び卸売価格の推移

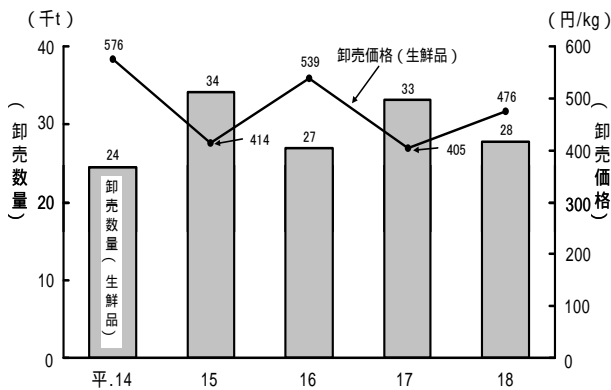
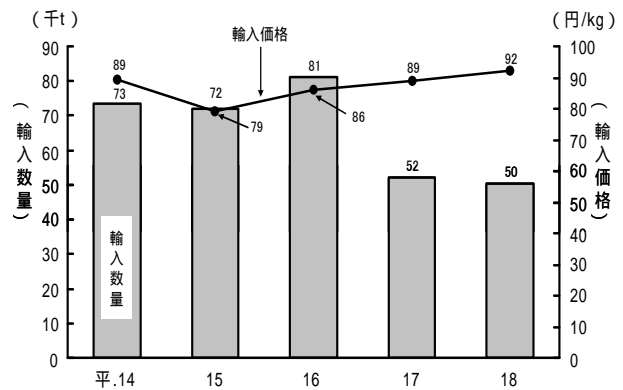
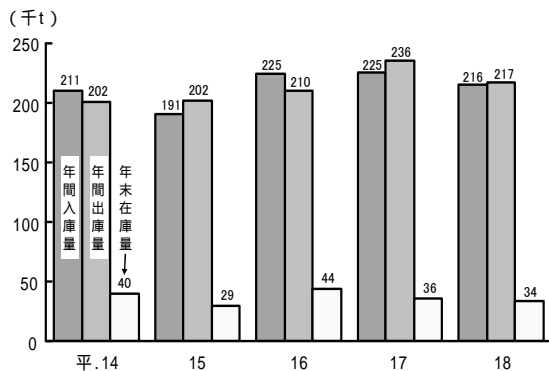


図 24 かつお（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移



資料：財務省『貿易統計』による。

図 25 かつお（冷凍品）の年間入庫量、年間出庫量及び年末在庫量の推移



イ ぶり類（生鮮品）

生鮮品（天然）の卸売価格は591円で前年に比べ24円（4%）上昇した。

生鮮品（養殖）の卸売価格は904円で前年に比べ127円（16%）上昇した。

これは、養殖の水揚量が減少したためである。（表12及び図26参照）

図 26 ぶり類（生鮮品）の卸売数量及び卸売価格の推移

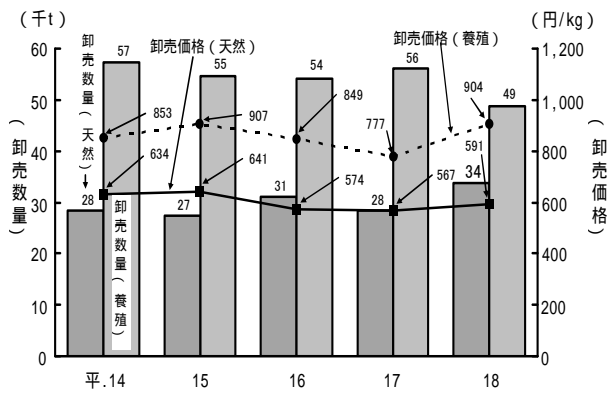
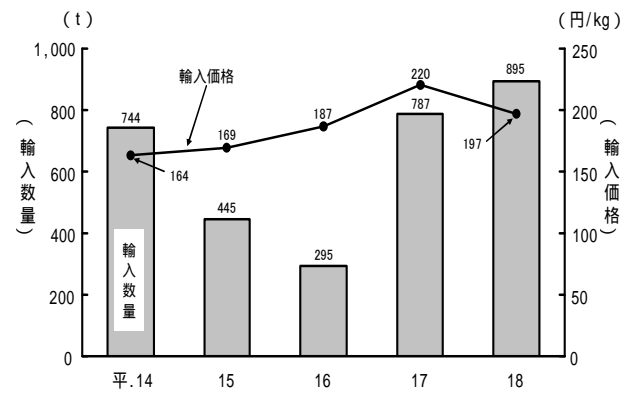


図 27 ぶり類（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移



資料：財務省『貿易統計』による。

ウ さば類（生鮮品）

生鮮品の卸売価格は298円で前年に比べ29円（9%）低下した。

これは、水揚量が増加したためである。

冷凍・冷蔵工場の年末在庫量は14万1,605 tで、前年に比べ2万24 t（16%）増加した。（表12、図28及び30参照）

図 28 さば類（生鮮品）の卸売数量及び卸売価格の推移

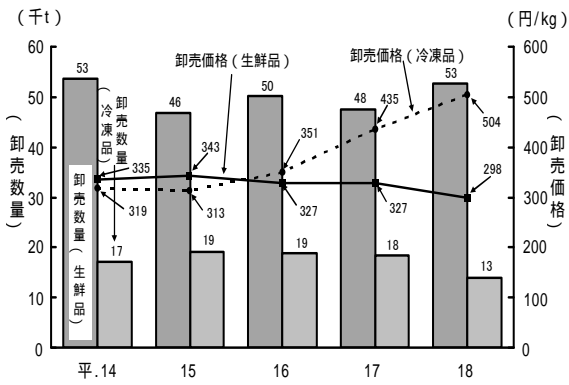
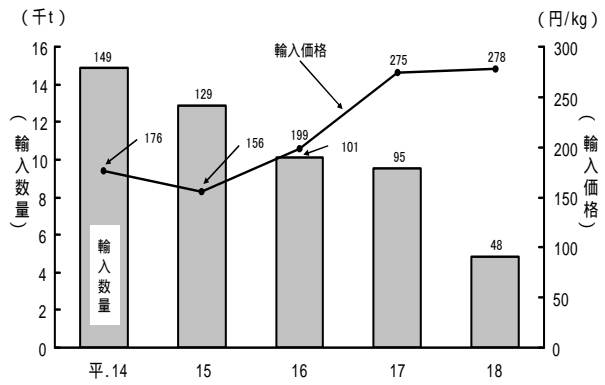
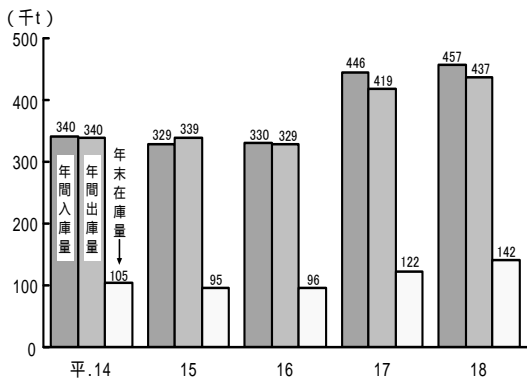


図 29 さば類（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移



資料：財務省『貿易統計』による。

図 30 さば類（冷凍品）の年間在庫量、年間在庫量及び年末在庫量の推移



エ まだい（生鮮品）

生鮮品の卸売価格は1,007円で前年に比べ203円（25%）上昇した。

これは、水揚量が減少し、輸入価格が上昇したためである。（表12、図31及び32参照）

図 31 まだい（生鮮品）の卸売数量及び卸売価格の推移

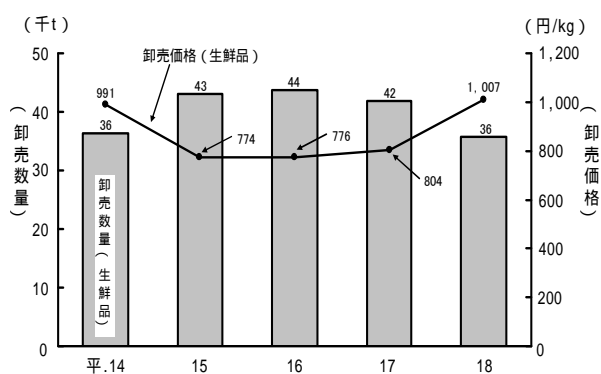
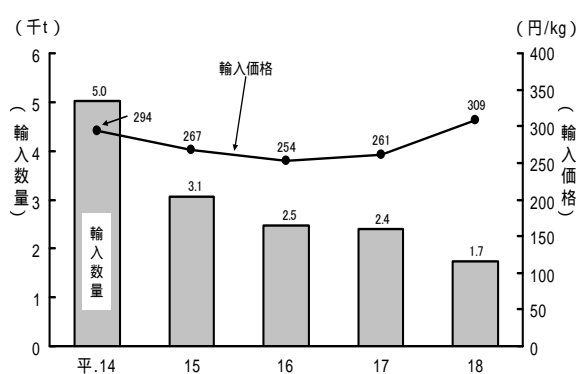


図 32 たい（生鮮品・冷蔵品・冷凍品）の輸入数量及び輸入価格の推移



資料：財務省『貿易統計』による。

4 水産加工品生産量の動き

(1) 食用加工品生産量

食用加工品生産量は199万9,821 tで、前年に比べ4%減少した。

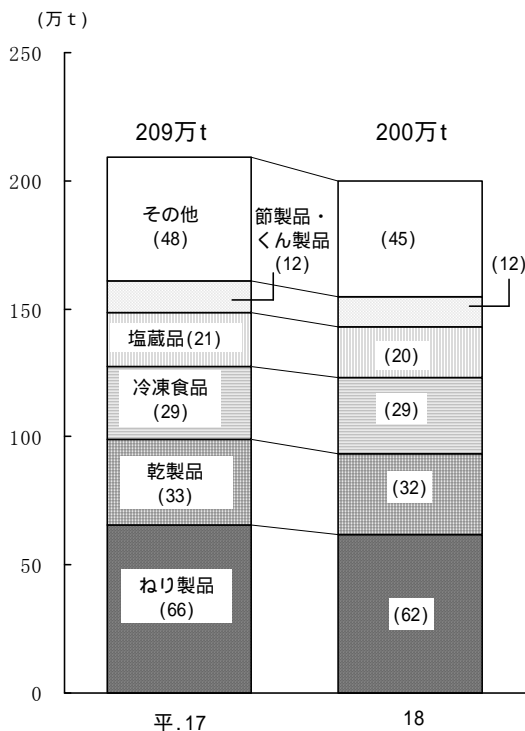
加工種類別にみると、ねり製品及び乾製品は前年に比べそれぞれ6%、5%減少したが、冷凍食品は前年に比べ3%増加した。(表13及び図33参照)

表13 加工種類別生産量の推移

加工種類 年次	食用加工品								注) 生鮮冷凍 水産物
	計	ねり製品	冷凍食品	乾製品	塩蔵品	くん製品	節製品	その他の 食用加工品	
生産量(t)									
平.14	2 135 825	676 565	315 793	341 127	221 817	12 580	116 277	451 666	1 403 763
15	2 129 166	658 293	319 582	346 680	208 947	12 848	110 770	472 046	1 548 220
16	2 129 597	660 322	303 236	332 872	218 396	13 037	109 839	491 895	1 628 978
17	2 090 493	655 247	285 643	333 525	208 580	11 805	111 476	484 217	1 625 150
18	1 999 821	617 956	292 985	317 738	197 975	7 876	111 862	453 429	1 679 191
対前年比(%)									
平.14	95	96	98	96	84	121	95	95	89
15	100	97	101	102	94	102	95	105	110
16	100	100	95	96	105	101	99	104	105
17	98	99	94	100	96	91	101	98	100
18	96	94	103	95	95	67	100	94	103

注：生鮮冷凍水産物とは、水産物の生鮮品（丸のほか、フィレー等を含む。）を凍結室において凍結したものである。

図33 食用加工品の種類別生産量



注：()内の数値は生産量である。

ア ねり製品

ねり製品の生産量は61万7,956 tで、前年に比べ3万7,291 t (6%)減少した。

品目別にみると、かまぼこ類は55万4,026 tで、前年に比べ3万2,939 t (6%)減少し、魚肉ハム・ソーセージ類は6万3,930 tで、前年に比べ4,352 t (6%)減少した。(表14及び図34参照)

図34 ねり製品の構成割合

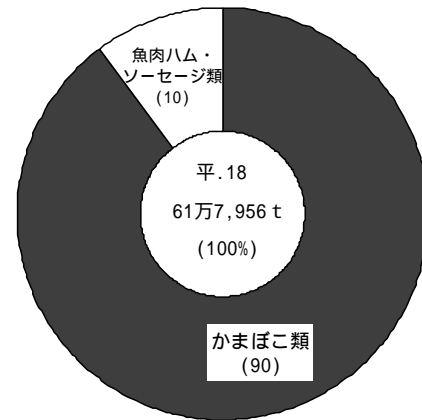


表14 ねり製品の品目別生産量

品目	単位：t		
	平. 18	17	対前年比
ねり製品計	617 956	655 247	94%
かまぼこ類	554 026	586 965	94
魚肉ハム・ソーセージ類	63 930	68 282	94

注：かまぼこ類の平成17年値は、やきちくわとかまぼこ類の合計値である。

イ 冷凍食品

冷凍食品の生産量は29万2,985 tで、前年に比べ7,342 t (3%)増加した。

品目別に見ると、魚介類(切り身、むきえび等の加工品)は15万1,213 tで前年並みであったが、水産物調理食品は14万1,772 tで、前年に比べ9,209 t (7%)増加した。(表15参照)

表15 冷凍食品の品目別生産量

品目	単位：t		
	平. 18	17	対前年比
冷凍食品計	292 985	285 643	103%
魚介類	151 213	153 080	99
水産物調理食品	141 772	132 563	107

ウ 乾製品

乾製品の生産量は31万7,738 tで、前年に比べ1万5,787 t (5%)減少した。

品目別にみると、素干し品は2万5,817 tで、するめが減少したこと等により前年に比べ6,527 t (20%)減少し、塩干品は22万2,883 tで、さばが減少したこと等により前年に比べ7,241 t (3%)減少し、煮干し品は6万9,038 tで、しらす干しが減少したこと等により前年に比べ2,019 t (3%)減少した。(表16)

表16 乾製品の品目別生産量

品 目	単位：t		
	平. 18	17	対前年比 %
乾 製 品 計	317 738	333 525	95
素 干 し 品	25 817	32 344	80
うち、す る め	10 450	12 682	82
塩 干 品	222 883	230 124	97
うち、さ ば	17 421	26 988	65
煮 干 し 品	69 038	71 057	97
うち、しらす干し	23 779	27 673	86

次に、品目別の魚種別構成割合を生産量の大きい順にみると、塩干品はあじ、ほっけ、いわし、煮干し品はいわし、しらす干し、素干し品はするめ、いわしの順となっている。(図35、36、37参照)

図35 塩干品の構成割合

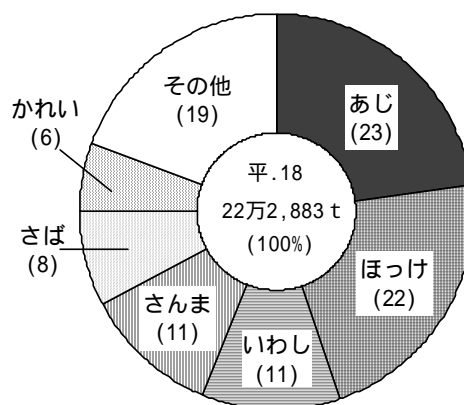


図36 煮干し品の構成割合

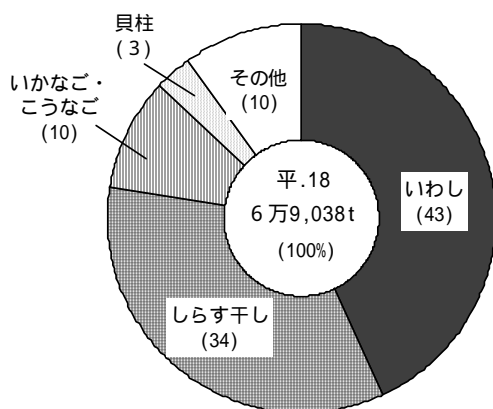
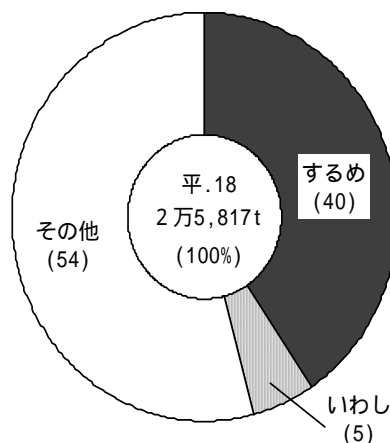


図37 素干し品の構成割合



エ 塩蔵品

塩蔵品の生産量は19万7,975 tで、前年に比べ1万605 t (5%)減少した。

品目別にみると、さけ・ますは10万8,303 t、たら・すけとうだらは1万1,253 tで、ともに前年並みであったが、さばは2万6,363 t、さんまは1万3,077 tで、前年に比べそれぞれ1,512 t (5%)、4,426 t (25%)減少した。(表17及び図38)

図38 塩蔵品の構成割合

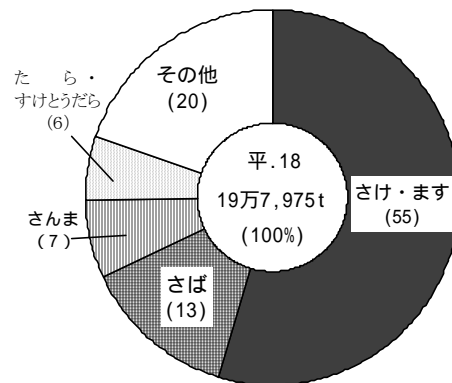


表17 塩蔵品の品目別生産量

単位：t

品目	平. 18	17	対前年比
塩蔵品計	197 975	208 580	95
うち、さば	26 363	27 875	95
さけ・ます	108 303	106 482	102
たら・すけとうだら	11 253	11 158	101
さんま	13 077	17 503	75

オ くん製品、節製品

くん製品の生産量は7,876 tで、前年に比べ3,929 t (33%)減少した。

節製品の生産量は11万1,862 tで、前年並みであった。

節製品を品目別にみると、節類は7万1,391 tで、前年に比べ2,782 t (4%)増加したものの、けずり節は4万471 tで、前年に比べ2,396 t (6%)減少した。(表18参照)

表18 くん製品、節製品の品目別生産量

単位：t

品目	平. 18	17	対前年比
くん製品	7 876	11 805	67
節製品	111 862	111 476	100
節類	71 391	68 609	104
けずり節	40 471	42 867	94

(2) 生鮮冷凍水産物生産量

生鮮冷凍水産物の生産量は167万9,191 tで、前年に比べ5万4,041 t(3%)増加した。

品目別にみると、さば類は44万1,683 t、いわし類は24万9,400 t、さんまは12万4,585 tで、漁獲量の増加等により前年に比べそれぞれ7万2,989 t(20%)、1万4,041 t(6%)、6,162 t(5%)増加し、さけ・ます類は15万4,929 tで前年並み、まあじ・むろあじ類は8万7,597 tで、漁獲量の減少等により前年に比べ、3万4,693 t(28%)減少した。(表19参照)

表19 主な生鮮冷凍水産物生産量

品 目	単位：t		
	平・18	17	対前年比
生 鮮 冷 凍 水 産 物 計	1 679 191	1 625 150	103%
うち、さけ・ます類	154 929	158 795	98
い わ し 類	249 400	235 359	106
まあじ・むろあじ類	87 597	122 290	72
さ ば 類	441 683	368 694	120
さ ん ま	124 585	118 423	105